

# EdTech 導入補助金2022

令和3年度補正 学びと社会の連携促進事業  
(先端的教育用ソフトウェア導入実証事業) 費補助金

## 効果報告レポート

【事業者名】

株式会社エル・インターフェース

【ツール名】

CollegePathway

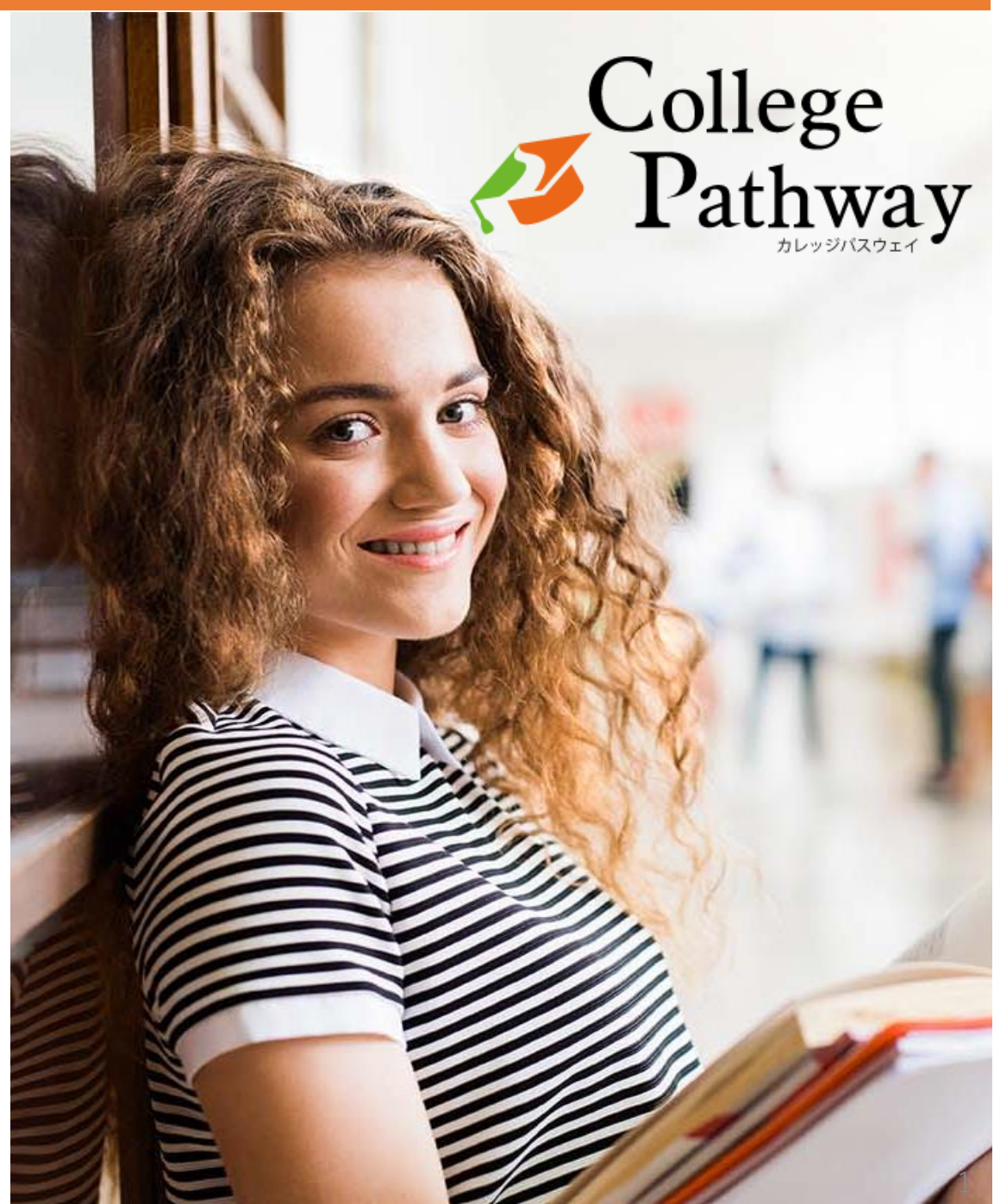
【ツールの機能分類】

学習支援・授業支援 (LMS)

2023年1月



College  
Pathway  
カレッジパスウェイ



対象製品「CollegePathway（カレッジパスウェイ）」の紹介



CollegePathwayは、英語学習を楽しく、効果的で、達成感のあるエンターテイメント満載のEdTechツールです

2,000時間超の学習コンテンツと定着率を高める独自のシステムで「読む・聞く」といったレセプティブスキルとその基礎となる単語と文法のチカラを徹底的に鍛えるトレーニングツールです。良質な学習コンテンツと高度なICT技術を融合することで、学校での学びを補完する新しい英語の学び方を提案します。

英検対策（5級～1級）から TOEFL・IELTS対策まで

CollegePathwayは英検（1級～5級）対策から国内大学の入試対策、そして海外大学に合格するために必要なTOEFLやIELTS対策など2000時間以上の教材を搭載しています。CollegePathwayでの学習は、学校で学ぶ英語や受験勉強が、IELTSやTOEFLにつながることを可視化します。それは国内大学を第一志望としている生徒も、海外大学の合格可能性に気づくこととなるでしょう。CollegePathwayには、いまの時代に合ったコンテンツと学び方があります。



学習行動のデータを自動収集

生徒一人ひとりの学習行動を自動で収集しデータ化されます。蓄積された学習データは、My Portfolio（学習カルテ）でグラフや表で分かりやすく視覚的に表し、学習の見直しやモチベーションの維持につながります。また、教員用のClass Portfolioでもそれらのデータをグラフやチャートで分かりやすく表示。クラスの学習傾向がひと目で分かり、一人ひとりに的確なフィードバックを与えられます。

ラウンドメソッドと「My 単語帳」

単語の習熟状況をReadingやListening、Grammarにも連動する機能が「ラウンドメソッド」。単語を多面的・反復的に学び、可視化することで、学習のモチベーションを喚起する効果があります。さらに「My 単語帳」では覚えた単語はもちろん苦手な単語や間違えた単語、単語に遭遇した回数まで自動集計される『自分の単語習得史』となるでしょう。

利用料：10名176,000円（税込）/年～ ※ご利用人数により利用料が異なります。

対象製品「CollegePathway（カレッジパスウェイ）」の紹介

CollegePathway で収集される学習データについて

CollegePathwayでは以下のような学習行動のデータを自動収集します。

①学習時間

Listening、Reading、Vocabulary、Grammarのスキル別に**学習時間**を取得

②学習習慣

1日に一定時間学習することでメダルを獲得。**メダル獲得数**によって学習が習慣化されているかを可視化

③単語数

意味だけ覚えた単語数とスペルまで覚えた**単語数**をそれぞれ取得  
1つの単語を何回解答したか、正解したかを取得

④達成度

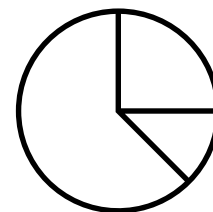
コースワーク（速聴速解・瞬間英作）のレッスン達成度、ホームワークやテストの解答状況などを取得

⑤総合指標

各種学習によって得られるマイレージで総学習量を数値化

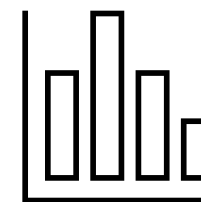
学習行動のデータと英語の成績の関係を検証することができます。

スキル別学習時間

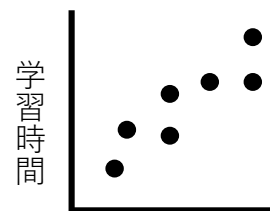


スキルごとの学習時間に偏りは見られないか？伸びのいい生徒はどのようなバランスで取り組んでいるか？

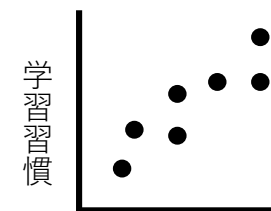
スコア分布



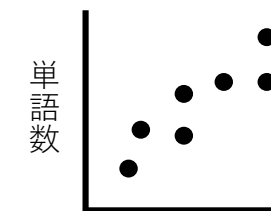
学校全体の英語力の分布はどうなっているか？



英語力



英語力



英語力

学習量や学習時間と英語力に関係があるか。どのくらいの学習量で目標スコアに達成できそうか。覚えた単語数は英語力の伸びに関係あるのか？意味だけよりスペルまで覚えたほうが伸びるのか？

### CollegePathwayに期待する「解決したい課題」

#### 課題① 習熟度の異なる生徒への対応

生徒一人一人の習熟度の違いにより、個々のレベルに最適な教材を提供するのは難しい。

#### 課題② 教員の業務負担軽減

教員の長時間労働が問題となっているが、ITの浸透と活用で既存業務の効率化が図れるのか。

#### 課題③ 学習習慣の確立

確かな学力を身につけるには学習習慣が必要だが、IT化は「学習の習慣化」にどこまで貢献できるのか。

### CollegePathwayにおける**解決へのアプローチ**

#### 課題①⇒豊富な学習教材

CollegePathwayには、英検（1級～5級）対策から日本の大学入試対策、さらに海外の大学に合格するために必要なTOEFLやIELTS対策まで、約2000時間の英語教材を搭載しており、習熟度の異なる生徒への対応も万全です。

#### 課題②と③⇒宿題やテストの自動化

CollegePathwayの「ホームワーク・テスト機能」は、従来の問題作成、印刷、採点業務を格段に軽減します。一度作成した問題は配信をセットするだけで「繰り返し学習」に最適で、「繰り返し学習」を定期的（毎日や毎週）に実施することで生徒の学習習慣の確立にも貢献します。

#### 課題③⇒成果の見える化（ポートフォリオ）

生徒一人一人の学習活動をグラフや表で分かりやすく表示したMy Portfolio（学習カルテ）は学習成果が見える化し、生徒のモチベーション維持や主体的な学びを後押しします。

課題①『習熟度の異なる生徒への対応』に対するアプローチ

E 高等学校様 - 朝学習の教材として活用 -

毎週月曜日の朝学習にCollegePathwayを活用。習熟度の異なる生徒が所定の時間に一齐に学習するため、学習教材は生徒自身で選択し、各自のペースで、自分に必要なスキルを学習してもらった。



【学習メニュー】



【レベル診断テスト結果サンプル】

【生徒の声】

- ・長文の読解力が上がり、リスニングも鍛えられて、英検準2級で自信を持って答えられた。河合模試等の試験でも役に立った。
- ・英語の勉強をすすんでやるようになった。また、休みの日など暇なときにでき新しい知識を得ることができた。
- ・自分の知っている単語と知らない単語について知ることができ、効率よく覚えられた。

【先生の声】

- ・自分のレベルから始められるのがとても良い。
- ・単語からリスニング、リーディングまで、英検や入試問題など幅広く網羅された教材があり、どんな生徒にも対応できる教材だと思います。
- ・自学自習ではあるが、リスニングを不得意とする生徒には、Listening BankのShort Dialogueを勧めたり、Short Dialogueの問題を解くのが難しい生徒にはディクテーションアプリの「ディクタン」を勧めたり、生徒へのフォローをすることで学習効果が上がりました。

## 課題②『教員の業務負担軽減』と課題③『学習習慣の確立』に対するアプローチ

CollegePathwayの「ホームワーク・テスト機能」を使用して、単語テストを実施。単語テストは「**テストセンター**」機能にて**自動配信**、**自動採点**、**集計**を行います。単語テストに出題される単語は、テスト範囲ごとに「**ホームワーク**」機能で**自動配信**し、予習と復習用にいつでも学習できるようにしました。

### F 高等学校様 - 夏休みの宿題として活用 -

語彙力アップと学習習慣を身につける事を目的に、夏休み中に毎日単語テストを実施。  
(配信時間：各日8:00~23:00)

月日	曜日	範囲
7.25	月	p54~p55
7.26	火	p56~p57
2.27	水	p58~p59
7.28	木	p60~p61
7.19	金	p62~p63
8.01	月	p64~p65
8.02	火	p66~p67
8.03	水	p68~p69
8.04	木	p70~p71
8.05	金	p72~p73
8.08	月	p74~p75
8.09	火	p76~p77
8.10	水	p78~p79
8.11	木	p80~p81
8.12	金	p82~p83
8.15	月	p84~p85
8.16	火	p86~p87
8.17	水	p88~p89
8.18	木	p90~p91
8.19	金	p92~p93
8.22	月	p94~p95
8.23	火	p96~p97
8.24	水	p98~p99
8.25	木	p100~p101
8.26	金	p102~p103
8.29	月	p104~p105
8.30	火	p106~p107

No.	配信名	配信者名	クラス	受講期間		平均点	受験率
				開始日時	終了日時		
200081	ターゲット1400 p54 (5問)	College Pathway	2022年高校1年B組	2022/07/25 08:00	2022/07/25 23:00	60.0	57.1%
200091	ターゲット1400 p56 (5問)	College Pathway	2022年高校1年B組	2022/07/26 08:00	2022/07/26 23:00	87.7	73.8%
200097	ターゲット1400 p58 (5問)	College Pathway	2022年高校1年B組	2022/07/27 08:00	2022/07/27 23:00	84.2	78.6%
200103	ターゲット1400 p60 (5問)	College Pathway	2022年高校1年B組	2022/07/28 08:00	2022/07/28 23:00	82.1	90.5%
200109	ターゲット1400 p62 (5問)	College Pathway	2022年高校1年B組	2022/07/29 08:00	2022/07/29 23:00	82.5	76.2%
200239	ターゲット1400 p64 (5問)	College Pathway	2022年高校1年B組	2022/08/01 08:00	2022/08/01 23:00	81.2	81.0%
200245	ターゲット1400 p66 (5問)	College Pathway	2022年高校1年B組	2022/08/02 08:00	2022/08/02 23:00	80.0	81.0%

【管理者画面でスコアや受験率を確認】

#### 【生徒の声】

- ・全く英単語を勉強しないという習慣が消えた。
- ・学習範囲を分けることで英単語の勉強を無理なく繰り返すことが出来た。

#### 【先生の声】

- ・宿題が自動で配信され、また採点や集計が自動に行われるので楽だった。

【配信スケジュール】

### A 高等学校様 - 朝学習として活用 -

毎朝実施していた紙ベースの単語テストをCollegePathwayに切り替えて実施。  
(配信時間：各日8:25~8:35)

	全11問	毎週100の範囲から8問		前回までの積み重ね2問		熟語5問
		英語-日本語	日本語-英語	英語-日本語	日本語-英語	
9月5日	月	791-900		1-790		
9月6日	火		791-900		1-790	
9月7日	水					245-250
9月8日	木	791-900		1-790		
9月9日	金		791-900		1-790	
9月10日	土					551-555
9月12日	月	901-1000		1-900		
9月13日	火		901-1000		1-900	
9月14日	水					556-560
9月15日	木	901-1000		1-900		
9月16日	金		901-1000		1-900	
9月17日	土					561-565

【配信スケジュール抜粋】

#### 【生徒の声】

- ・単語学習の効果が上がった。
- ・単語や熟語をタイピングで覚えられるのが良かった。

#### 【先生の声】

- ・出題範囲を先に決めてしまえばあとは自動で配信、採点されるのが良かった。
- ・朝配信することにより、学校に余裕をもって登校するようになった。



サポート名	サポート内容	補助事業における特別サービス
初期セットアップ	ユーザー（生徒・先生）登録とクラス登録業務を行い、CollegePathway内でのクラス運営がスムーズにいくように運用を支援。	○
教職員向け導入説明会	CollegePathwayでの宿題やテストの活用方法の説明をオンラインまたは訪問で実施。	○
宿題DX化支援（宿題登録支援業務、小テスト登録支援業務）	CollegePathwayの教材の中から学校に合わせた宿題や小テストを作成し、クラスに配信する運用支援を実施。	○
学習データ分析	生徒の学習行動やテスト結果等の学習データと分析結果を基に、今後の取り組み方を検討する材料を提供。	○
コールセンター	システム担当の専用窓口を設置し、操作説明やトラブルシューティング等に対応。	○



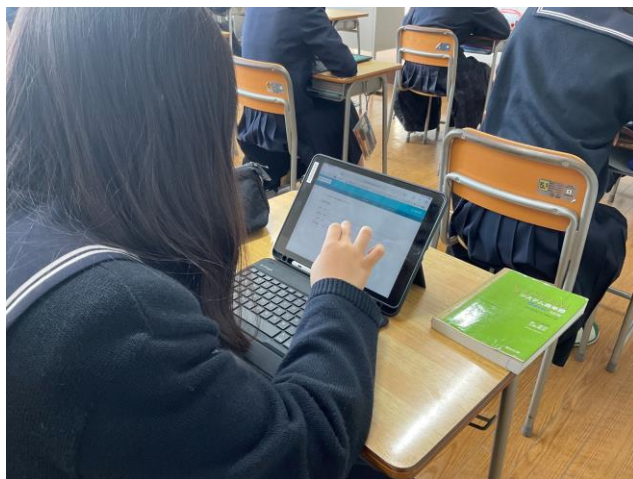
【学習データ分析報告書作成】

No	単語	レベル	意味	種類
4003	hunger [名]	初	飢え、空腹	削除
3000	ride [動]	初	乗る	削除
2886	hundred [数]	初	100、1000	削除
3376	chival [名]	初	騎士	削除
2810	during [副]	初	～の間ずっと	削除

【宿題DX化支援（ホームワーク作成）】

学校設置者数と学校数

学校設置者数	9団体
学校数	12校



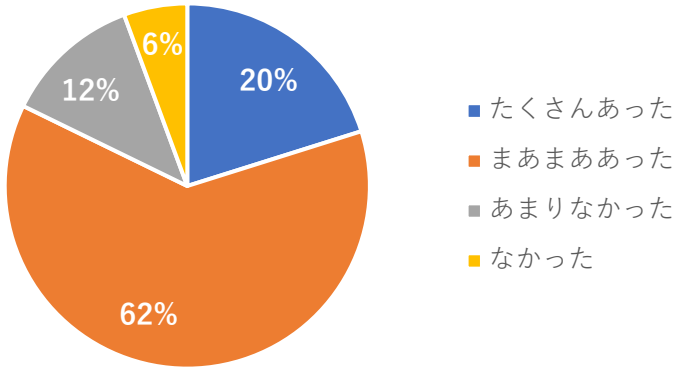


# EdTechツールによる活用効果

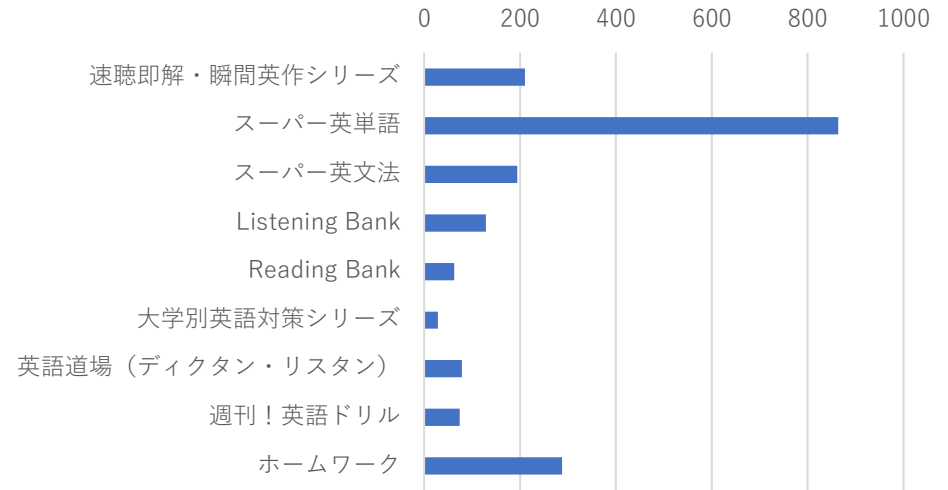
## 課題① 『習熟度の異なる生徒への対応』 に関する生徒アンケート

82%の生徒が自分のレベルにあった教材があったと回答しました。  
 また、下記のアンケート結果より、学校の授業や宿題での利用の他、受験や英検対策、または、IELTSやTOEFL対策など、生徒個々の目的に応じたスキルを学習していたことが伺えます。  
 CollegePathwayの導入は、習熟度や目的の異なる生徒に対応するものと考えられます。

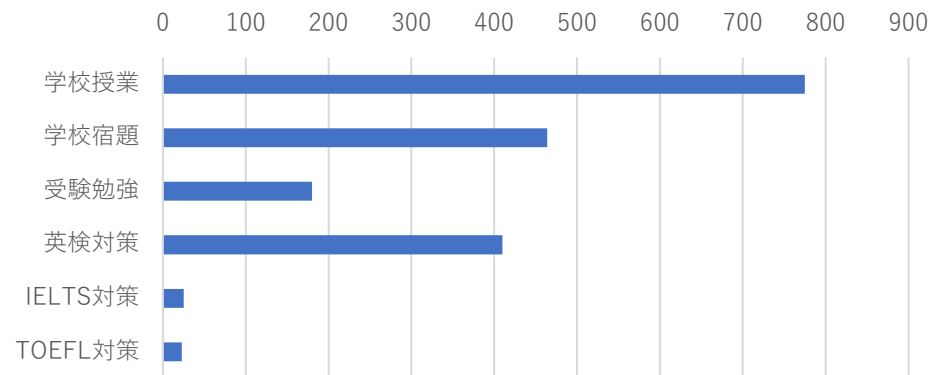
### 自分のレベルにあった教材はありましたか？



### CollegePathwayの学習メニューでよく利用したものはどれですか？ (複数回答可)



### CollegePathwayは主にどのような目的で利用していますか？ (複数回答可)

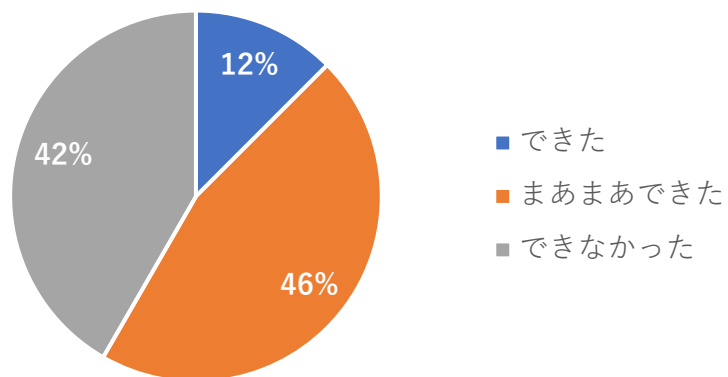


※2022年12月にアンケートを実施。1369名に回答をいただきました。

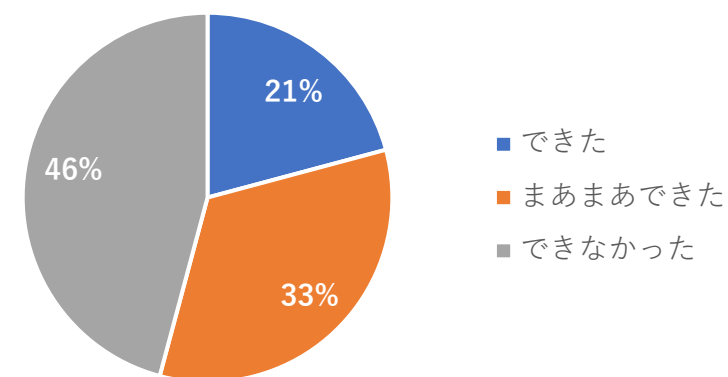
課題② 『教員の業務負担軽減』 に関する教員アンケート

CollegePathwayを利用することで**業務軽減ができた**と**58%**の先生が回答しました。  
 また、**54%**の先生がCollegePathwayを**学習指導に役立てることができた**と回答しています。  
 学校内で中心となってご利用いただいた先生方には概ね業務負担の軽減を直接感じていただいたようです。一方、学校全体での取り組みや活用法の共有など、中心となってご利用いただいた先生方だけでは難しかったことが伺え、多くの先生方に参加していただくための、さらなる適切なサポートとは何か、課題も残りました。

CollegePathwayを利用することで  
業務軽減はできましたか？



CollegePathwayを学習指導に  
役立てることができましたか？

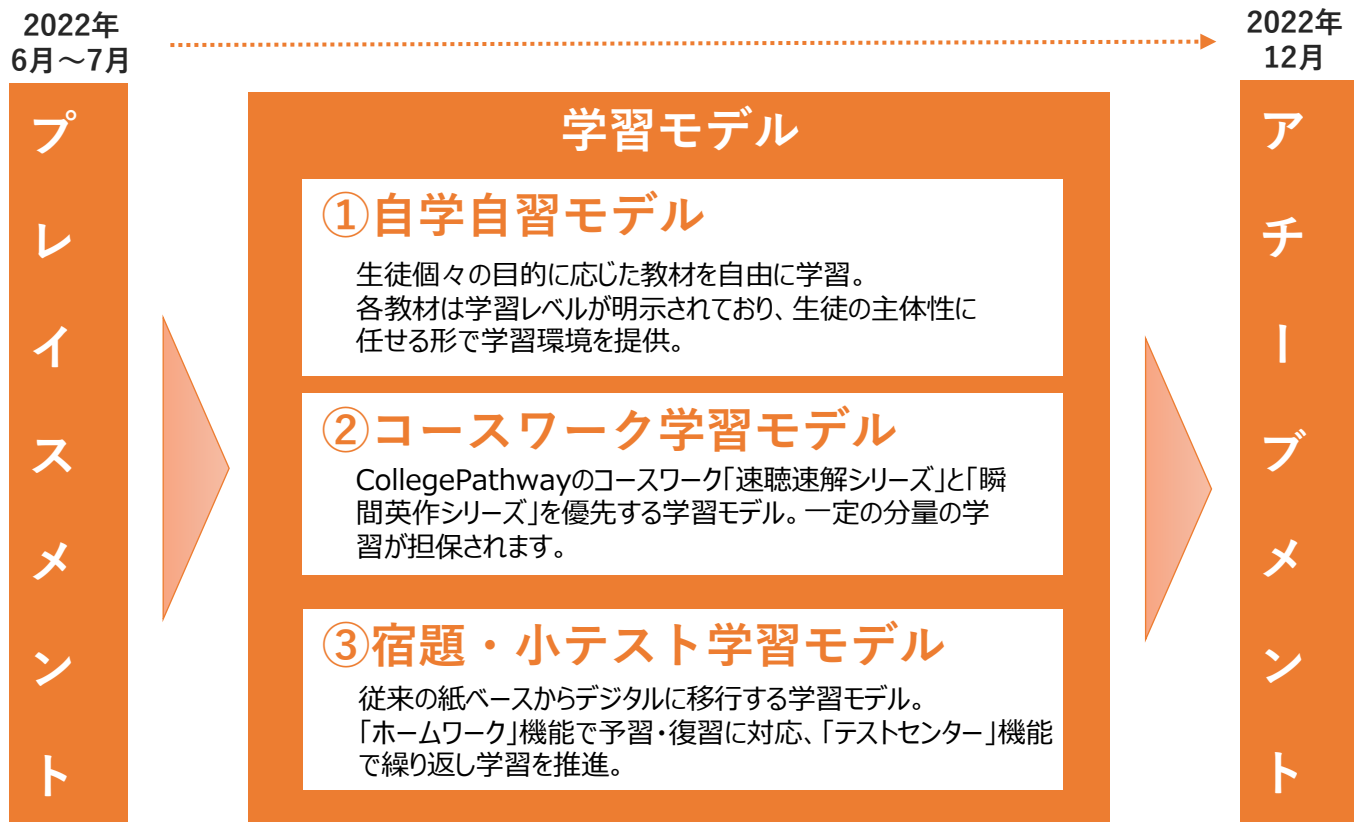


※2022年12月にアンケートを実施し24名に回答をいただきました。

## 活用効果の検証 ① - 検証方法 -

以下の内容で生徒の学習行動とその効果検証を実施しました。

1. 導入時にプレイスメント・テストを受験
2. 3つの学習モデルから学校・学年・クラスに適した学習モデルを選択
3. 12月にアチーブメント・テストを受験



### 全受験者の試験結果

	受験者数	平均点
プレイスメント	2395人	40.6点
アチーブメント	1091人	46.1点

### 両テスト受験者の試験結果

	受験者数	平均点
プレイスメント	1019人	42.2点
アチーブメント	1019人	45.7点

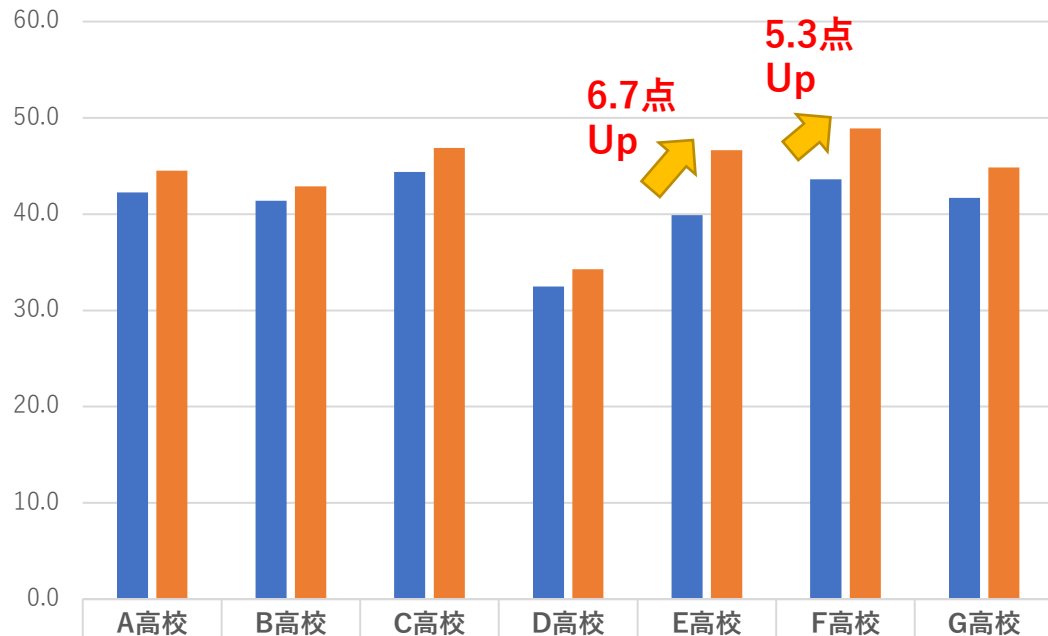
※プレイスメント/アチーブメントテストは、CollegePathwayに標準搭載されているオンライン模試を利用。

# EdTechツールによる活用効果

## 活用効果の検証 ② - 取り組みと学習成果 -

プレイスメントとアチーブメント・テストの両方を受験した1019人の平均点を比較しますと、すべての学校でアチーブメント・テストの平均点がプレイスメント・テストのそれより高い結果でした。なかでも上昇率が大きいE高校とF高校の取り組みを担当の先生にインタビューしました。

テスト平均点比較



■ プレイスメント	42.3	41.4	44.4	32.5	39.9	43.6	41.7
■ アチーブメント	44.5	42.9	46.9	34.3	46.6	48.9	44.9

■ プレイスメント ■ アチーブメント

### 【平均点が6.7点アップしたE高校の取り組み】

#### 実施した学習モデル

##### ① 自学自習モデル

朝学習にCollegePathwayを活用。学習する内容は生徒自身で選択し、自分に必要な教材で自習する。

##### ② コースワーク学習モデル

コースワークの「速聴速解（ディクテーション学習）」を定期テストに組み込み、コースワーク学習を促す。

#### 活用効果

様々な習熟度の生徒が自分に適した教材を利用することができた。生徒が選択する教材は教員がフォローすることで、より適切な教材選択につながって効果的だったと思う。ディクテーション学習の速聴速解では、普段取り組みづらいリスニング学習を手軽に行えた。自分のレベルにあった教材や気楽に学習できるところが、モチベーションの維持や継続学習を促し、成績向上につながったと思う。

### 【平均点が5.3点アップしたF高校の取り組み】

#### 実施した学習モデル

##### ③ 宿題・小テスト学習モデル

夏休みに単語テスト（スペル編）をCollegePathwayで毎日実施。試験範囲の予習と復習をいつでも学習できるようにホームワーク機能で夏休み中はずっと公開していた。

#### 活用効果

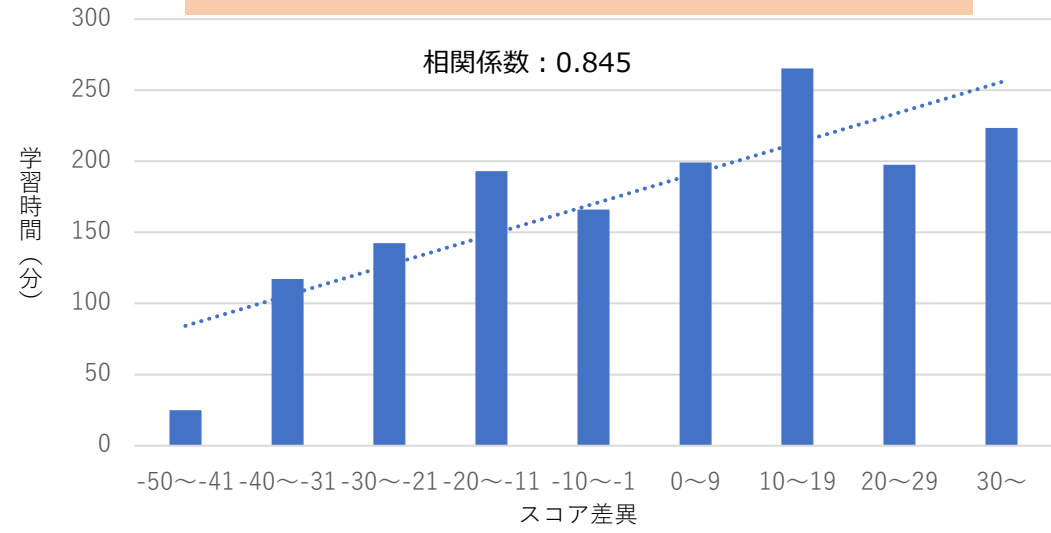
夏休みに毎日実施したことで学習習慣が身につく、2学期以降の定期的な学習に結びついた。また、単語学習を意味の確認だけではなく、スペルまで学習することで、語彙力をしっかり上げることができた。この取り組みにより学習習慣を身につけ、語彙力をあげることができた。それが成績向上につながったと推察する。

# EdTechツールによる活用効果

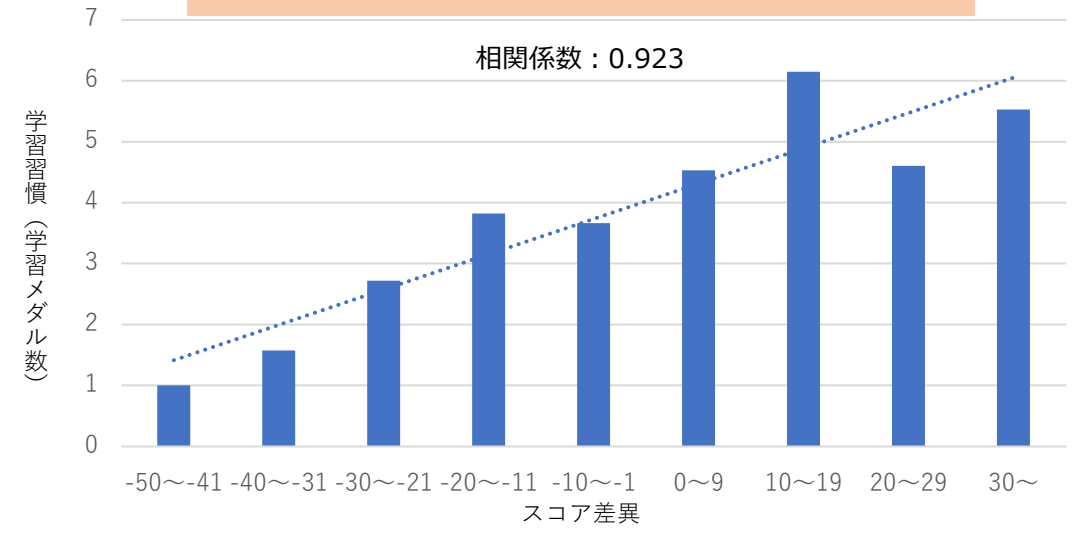
## 活用効果の検証 ③ - 分析と考察 -

プレイスメントとアチーブメント・テストの両方を受験した1019人の学習行動と成果（英語力の変化）に関する分析は以下の通りです。  
 アチーブメントのスコアからプレイスメントのスコアを引いた数を「英語力の伸び」（ここではスコアが下がったマイナスの場合も英語力の伸び）とした場合、英語力の伸びに寄与する因子を発見する第一歩の試みとして、学習時間や単語数との程度相関があるのかを調査しました。  
 その結果、スコアの上昇率が高い生徒ほど学習時間が多く、学習習慣も身につけている傾向があることがわかりました（グラフA、グラフB）。さらに、英語力の伸びと最も相関が高かった学習要素は「スペルまで覚えた」単語数でした（グラフC）。一方、「意味だけを覚えた」単語数と英語力の伸びの相関は0.043とまったく関係性はないようです。単語学習においては単語数をやみくもに増やすのではなく、繰り返し学習（スペルまで覚えるには該当の単語に最低2回以上遭遇することが必要）の重要性を示しました。

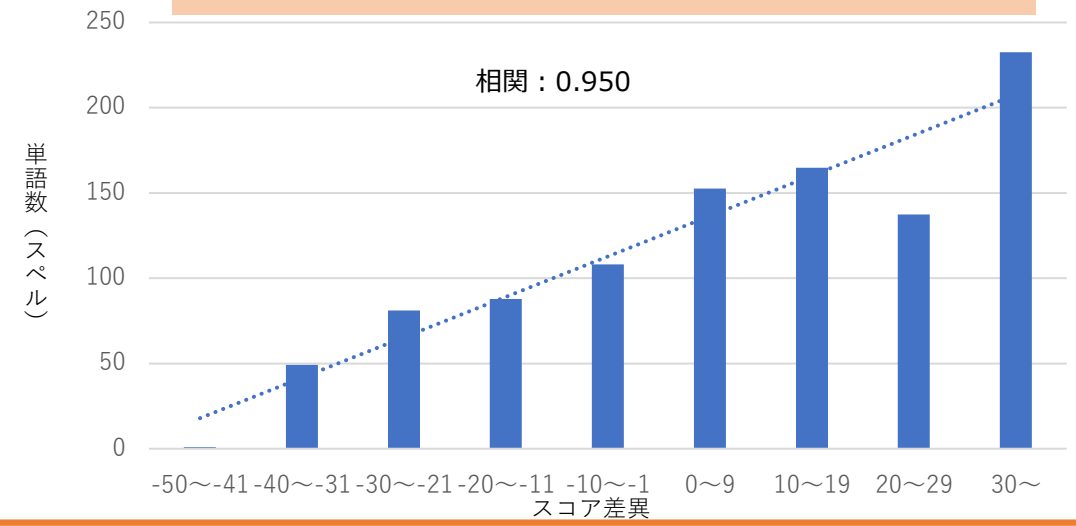
(A) 英語力の伸びと学習時間の関係



(B) 英語力の伸びと学習習慣の関係



(C) 英語力の伸びと単語数（スペル）の関係



### <生徒コメント>

- 英単語を学習するときに、単語の意味を覚えてそのあとにつづりを覚えるという形で、英単語を覚えやすかった。
- 単語の解答と共に、音声も一緒に聞けるから発音の勉強にもなった。
- 自分の覚えている英単語と覚えていない英単語の仕分けをすることにより、効率的に英単語の勉強をすることができた。
- 単語勉強だけではなくリスニング勉強にも取り組みやすくなった。
- ディクテーションが簡単にできるからリスニング力が鍛えられた。熟語がたくさん覚えられた。
- 通学時間が有意義なものになったり、休日出掛けた際の移動時間や暇な時間を好きな英語の勉強に充てられた。
- 問題集が手元になかったり移動中でも勉強できた。
- 単語の勉強がしやすくなった。ウェブだからスマホでもやりやすかったからストレスも感じず自主的に取り組めた。
- 志望大学の英語試験の難しさがよくわかった。
- 英検対策・定期テスト対策ができた。
- 色々な資格の問題があって英検準1級を準備するのにとても役に立った。
- 手軽にこれまで勉強した単語の復習を行うことができ自分の課題を再確認できた。

## <先生コメント>

- 単語テストの集計が楽になった。
- 単語テストの配信は業務改善にもつながり良かった。
- 自習の時間にこのプログラムを活用できた。
- 問題数も多く、問題の精度も高いので、引き続き利用したい。
- 単語からリスニング、リーディングまで、英検や入試問題など幅広く網羅された教材があり、どんな生徒にも対応できる教材だと思う。
- 自分のレベルから始められるのがとても良い。
- 「現在123人学習中です」など数字が見えるのは、自分もやらなくてはと思う生徒がいるので良いと思う。
- 事前に活用方法を計画することができていれば、もっと有意義に使えていたと思う。
- 機能が多岐にわたるため使い方をある程度把握すれば教育活動の幅も広がるし、業務負担軽減につながると感じた。しかし、多岐にわたるがゆえに、使い方を理解している教員を増やすことに苦労している。学校として導入するには、試用期間の段階で教員向けの使い方講座も必要と感じた。

## 課題1：ID・パスワードを忘れてログインできない

- ・シングルサインオンの導入を提案

## 課題2：学習方法が分からず利用できない生徒がいる

- ・学習ガイドや動画の提供
- ・最初の何回かは学校で学習する機会を設け、操作に慣れる時間を作る。 ※今年度導入校で実施し、スタートアップが成功した学校がありました。

## 課題3：学習へのモチベーションの維持が難しい

- ・生徒の学習カルテである「My Portfolio」の活用

「My Portfolio」は生徒一人一人の学習状況を確認できるので、頑張っている様子があれば声をかけたり、学習バランスのチェックをしてアドバイスを送るなどでモチベーションの維持につなげることができます。

今年度は「My Portfolio」の活用方法の周知が足りていなかったため、早い段階で説明会を実施し、「My Portfolio」の活用の理解を得たいと思います。

## 課題4：使い方を理解する教員を増やすのが難しい

- ・利用ガイドの充実（動画やFAQ含む）
- ・CollegePathwayの活用方法のワークショップを実施



企業名	株式会社エル・インターフェース
会社所在地	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-18-20 代々木フォレストビル
設立	2001年6月14日
代表取締役社長	高橋 新悟
事業内容	ソフトウェア開発 ・ コンテンツ開発 Webシステム運用保守 ・ 教育支援サービス
主要取引先	学校法人：（順不同敬称略） 青山学院大学・立教大学・中央大学・法政大学・芝浦工業大学・ 東洋大学・日本大学・新潟大学・一橋大学・東京農工大学・ 埼玉大学・大妻女子大学・名古屋大学・滋賀大学・同志社大学・ 京都工芸繊維大学・大阪公立大学・熊本学園大学・佐賀大学・他 100校以上の国立・私立大学 官庁・企業：（順不同敬称略） ダイヤモンド社・朝日新聞社・KDDIグループ等
会社HP	<a href="https://www.l-interface.co.jp/">https://www.l-interface.co.jp/</a>
製品HP	<a href="https://www.supereigo.com/">https://www.supereigo.com/</a>
お問い合わせ	academic@supereigo.com

学校法人向けEdTech製品（スーパー英語.com）一覧

UPAA Suite



2021年 第18回日本e-Learning大賞  
キャリアアップ教育特別部門賞受賞

EAT English Assessment Test × College Pathway × UPAA apply

小・中・高校向け

College Pathway  
カレッジパスウェイ  
英語の基礎を培う

大学・短大向け

Academic Express3  
Academic Express2  
旧バージョン  
教養英語を鍛える

スーパー英語.com  
The English Language Materials Bank

<https://www.supereigo.com/>

ディクタン  
第9回 日本e-Learning大賞  
英単語部門賞

ディクテーション・アプリ

the Bridge

英語「で」学ぶ力を強化する



ISO/IEC 27001:2013 JIS Q 27001:2014  
2019年6月 認証取得

※TOEFL/TOEIC/TOEIC Bridge/IELTSは各社の商標または登録商標です。（本資料では商標表示(TM,(R))は省略しております。）